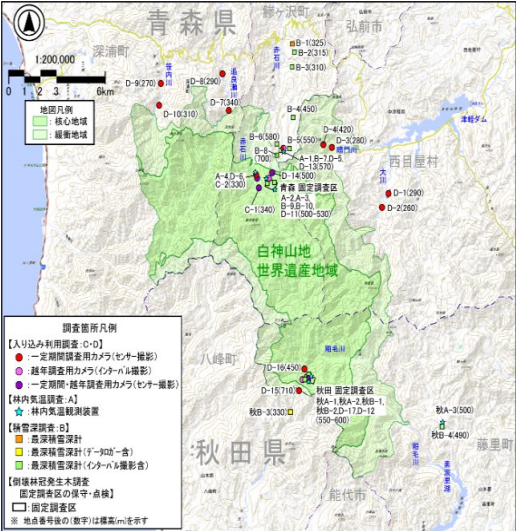


ID ^{注1)}	251201	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙・電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	241201
報告書名称 /調査名称	令和6年度 白神山地世界遺産地域における原生的ブナ林の長期変動調査							発行年月/報告年月	
								2025年 2月	
								資料形式 ^{注2)} 報告書	
調査機関	東北森林管理局			委託機関	株式会社グリーンシグマ				
調査開始年	1999年			調査期間	2024年 8月	～	2025年 2月		
調査頻度 ^{注2)}	毎年	—	—	調査時期 ^{注2)}	通年 — —				
モニタリング計画	2022年7月 改訂			区分 ^{注2)}	ⅡA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
調査箇所・範囲 ^{注3)}				目的・調査手法					
☒ 核心地域 ☒ 緩衝地域 ☒ 周辺地域 ☒ GPS等の位置データあり				【R4・R5年の豪雨の調査への影響】 - 青森県側は令和4年度、秋田県側は令和5年度の大雨の影響により現地まで到達することが困難な箇所が多数あることから、今年度は以下の項目に限定して調査を実施した（仕様書より）。 - 今年度の実施項目は、入り込み利用調査2箇所（D-3、D-4）、積雪深調査1箇所（秋B-4）と林内気温調査1箇所（秋A-3）のみである。 1. 倒壊林冠発生木調査 ・実施せず。 2. 積雪深調査 ・遺産地域内及び周辺の14地点（青森県側10箇所、秋田県側4箇所）に設置されている最深積雪深計のうち、1地点（秋B-4）の測定を行うとともに、点検を行った。 ・自動撮影カメラ（インターバル撮影）のデータを回収し、画像から積雪深を計測した。秋季に自動撮影カメラを設置した。 3. 林内気温調査 ・遺産地域内及び周辺の7地点（青森県側4箇所、秋田県側3箇所）に設置されている林内気温観測機器のうち、1地点（秋A-3）からのデータ回収と再設置を行った。 4. 入り込み利用調査 ・遺産地域内の溪流沿いの2地点に自動撮影カメラを設置した。撮影期間は8月下旬から10月下旬までの約2ヶ月で、撮影日数は60日であった。撮影された画像から目的別の人の入り込み状況を把握したほか、哺乳類の撮影状況も把握した。					
									
調査結果概要									
2. 積雪深調査（図1～図2） - 令和5年度冬季の秋B-4の最深積雪深は2月12日に最大値の1.4mとなった。令和4年度より1.3m少なく、平成13年度から令和4年度の平均値と令和5年度の値を比較すると、過年度平均より1.2m少なかった。 - 最深積雪深は数年周期で増減を繰り返してきているように見える。ただし、平成30年度冬季から令和2年度冬季にかけては最深積雪深計の最低部の針金が曲がらず欠測が生じた箇所も多く、令和5年度は過去2番目に少なくなり、白神山地においては長期的に見て積雪深が減少傾向にあると考えられる。 3. 林内気温調査（図3～図7） - 令和5年11月から令和6年10月までの秋A-3の林内気温の月平均値について、全般的に高温傾向であり、3月、5月、7月以外の月で平年を上回った。特に冬から春にかけての積雪期間の気温が高く、1月は平均気温が-2.2℃で平年より2.2℃、2月は-2.0℃で平年より1.8℃、4月は9℃で平年より3.3℃上回り過去最高を記録した。3月は平年を1.2℃下回った。5月から9月にかけては、平年と同程度か0.7～1.2℃上回った。 - 年平均気温は、6.7～8.9℃の間を推移しており、令和5年には大きく上昇し、令和6年も高い状態が続いた。調査期間を通じては、近年が顕著に高くなっている傾向に見ることから、今後の推移に注視が必要である。 - 真夏日は、令和元年以降に真夏日が記録されるようになってきており、令和5年には秋A-3で5日と急増したが、令和6年には記録されなかった。 - 年平均気温や年最低気温等では明瞭な傾向は認められなかったが、寒さの指数は上昇傾向（寒さが和らぐ）にあることから、冬季の冷え込みが弱くなりつつある可能性が示唆され、これが近年の少雪傾向の一因とも推測される。 - 令和4年までは年最高気温や年積算気温、暖かさの指数から気温上昇の傾向が示唆されていたが、令和5年は顕著に上昇して過去最高値を記録した。令和6年も年最高気温こそ高くなかったものの、全般的には令和5年と同様に顕著な高温傾向が継続した。 4. 入り込み利用調査（図8～図9） - 今回調査の全地点の利用者総数は22人であった。登山が最も多く10人で45.4%を占めた。次いで、巡視7人、山菜採り5人であった。 - 過年度と比較すると、令和5年度は全地点で調査が実施されておらず、本年度も暗門川のD-3とD-4の2地点のみの実施であった。そのため、近年の全体的な傾向は把握できないが、暗門川については豪雨被害のあった令和4年度よりやや増加しており、利用者数が回復傾向にある可能性も考えられる。 - 哺乳類についてはツキノワグマとカモシカの2種が確認された。ヒノジキは撮影されなかった。									
問い合わせ	林野庁 東北森林管理局 計画保全部計画課 〒010-8550 秋田県秋田市中通五丁目9番16号 TEL：018-836-2489 ――― 《原本（データ）の帰属について》								
注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。 注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。 注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。									

備考

2. 積雪深調査

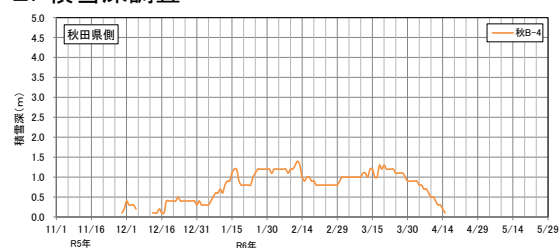


図1 最深積雪深計のインターバル撮影による積雪深の推移

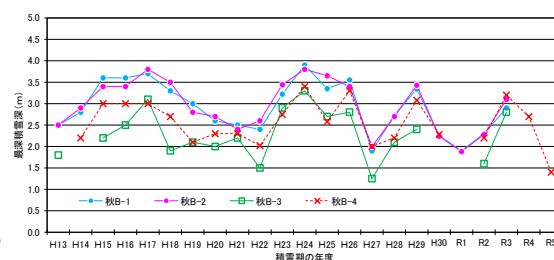


図2 最深積雪深の経年比較(秋田県側)

3. 林内気温調査

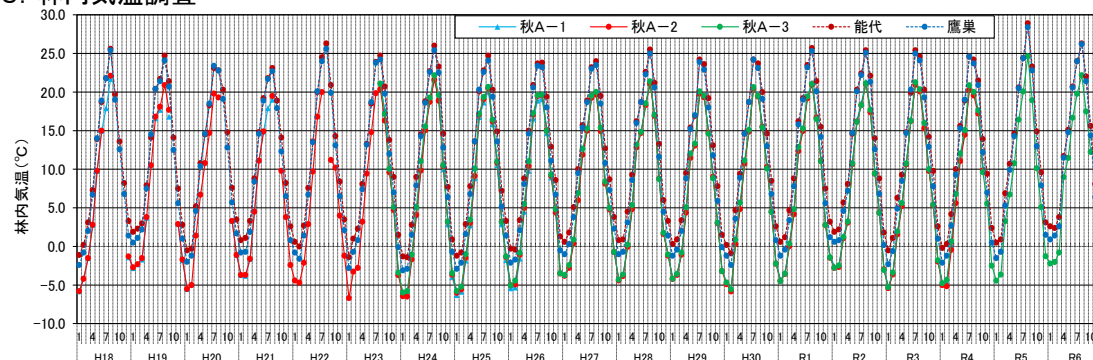


図3 林内気温 月平均気温の変化(秋田県側) 能代と鷹巣はアメダス観測値

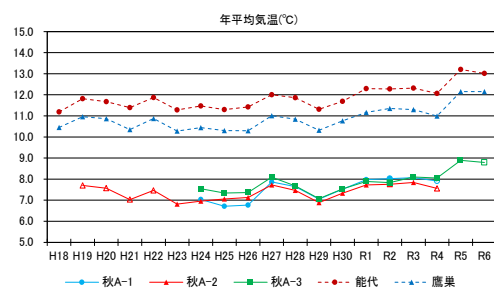


図4 林内気温 年平均気温の経年変化(秋田県)

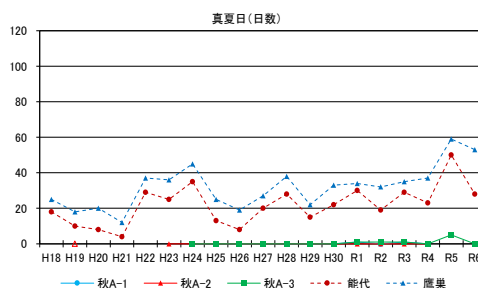


図5 林内気温 真夏日の経年変化(秋田県側)

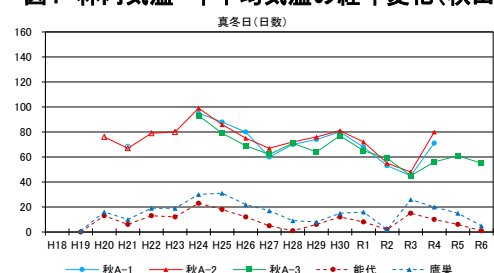


図6 林内気温 真冬日の経年変化(秋田県側)

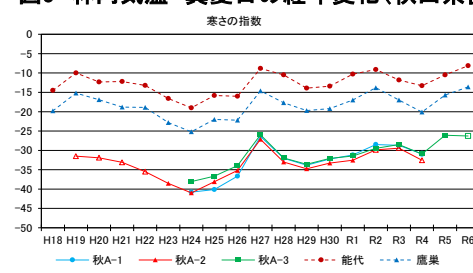


図7 林内気温 寒さの指数の経年変化(秋田県)

4. 入り込み利用調査

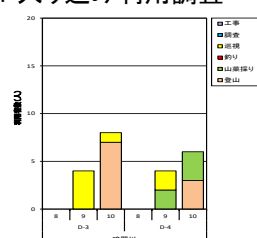


図8 地点ごとの月別利用状

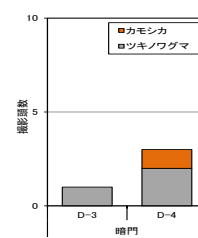


図9 入り込み利用調査で撮影された哺乳類